

「生活支援体制整備部会」の協議状況について

1 部会開催日

9月27日、10月5日、11月29日の計3回開催

2 主な協議内容

(1) 国が示す生活支援体制整備事業の取組について

※生活支援体制整備事業：(平成30年4月～)

専門的な事業者等のみでなく、地域住民、地縁団体等を含めた多様な主体が、生活支援・介護予防の取組を推進するため、以下を配置、設置する事業

- (1) 地域支え合い推進員を！(市全域版・日常生活圏域版)
- (2) 協議する場(協議体)を！(市全域版・日常生活圏域版)

- ① 日常生活圏域版の協議する場(第二層協議体)の設置に向け、「地域でのちょっとした助け合い・支え合い」というテーマで座談会を開催するため、座談会の進め方(グループワークの手法等)について検討した。



- ② 10月5日に、初めての試みとして、太田地区老人クラブを対象に座談会を実施した。本部会から8人の委員が参加し、老人クラブ会員とともにグループワークを行った。

○グループワークのテーマ

- ・一人暮らし等方の支援(ゴミ出し、買物、安否確認等)
- ・認知症への理解を進める
- ・我が地域の取組(お宝)を他地域へ自慢しよう

(同座談会の内容については、資料1-(1)-①)



- ③ 座談会の結果を受けて、進め方の問題点や、太田地区老人クラブに対する今後の働きかけ内容などを部会で協議した。

※ 働きかけの主な内容

○認定証書等の交付

座談会参加者に「地域支え合い推進員」に認定する旨の「認定証書」を交付し意識づけ。(今後、腕章やジャンパー等も検討)

○訪問する際のチラシ配布

既に行われている訪問・声掛けの際に、自分の名前と連絡先を入れたチラシを配付し、より助け合いが進むようにする。(市がチラシ作成)

○認知症理解促進に向けた市の事業利用

認知症出前講座や認知症サポーター養成事業などの周知。

○ボランティア送迎サービス補償の利用

格安で利用できる全国社会福祉協議会や他民間のボランティア保険の紹介。

(2) 個別地域ケア会議から抽出された地域課題の検討について

○ゴミ出し支援

○身寄りのない方のペットの世話ができなくなったときの対応

○市営住宅入居者での階段昇降が難しくなった高齢者の下層階への転居の方策

⇒（資料2）

◎10月5日太田地区老人クラブ座談会の振り返り

	グループワークのテーマ	グループワークで発表された内容
グループ 1	一人暮らし等の方への支援(ゴミ出し、買い物、安否確認等)	一人暮らしの方への支援 ・大字に加入してもらう。→配布物で声掛けができる。 ・移動販売車で買い物支援→人が集まりおしゃべりできる。
	老人クラブ参加者	・隣り近所で声掛け→同年代の人の声掛け→脳の活性化
	3人	・家族の関係のところに踏み込み切れないところもある。→個人では限界があるのでは。
	部会委員等の参加 4人	その他、全体的な意見、司会者の印象にあること等
	横山委員 平瀬委員 江上生涯学習センター館長 (司会)佐々木主査 (市社協地域福祉課)	認知症について、自分の家族が認知症でも地域の人には言えない(地域に見守りをお願いできない)という意見があった。 行政区や地域の事業に参加すれば、日頃からの見守りになるが義務感が生じてしまうという意見があった。
グループ 2	グループワークのテーマ	グループワークで発表された内容
	認知症への理解が少ない、家族に認知症高齢者がいることに対して、地域の方々の理解が少ない	認知症と向かい合う ・普段からのお付き合い→家族から周囲の人へ伝えておく。 ・高齢者の認知症のサインに気づく→気づいたら、まずはその高齢者の家族に話す。
	老人クラブ参加者	・サロンで見守る。→変化に気づきやすい。
	4人	・若い方で老人会に入らない人もいる。
	部会委員等の参加 2人	その他、全体的な意見、司会者の印象にあること等
	佐藤清彦委員 (司会)伊賀主任 (市長寿福祉課)	・顔を合わせれば挨拶や声掛けはしている。しかし、時代の流れで、昔のように食べ物をあげたりもらったりなどの助け合いはなくなった。お金で解決できてしまう。 ・(司会)認知症の介護を経験している方が多く参加していたため、体験談が出ていた。周囲の理解が深まる方法に具体的なものは出てこなかった。印象に残ったのは、家族の中では年相応の衰えと思い、認知症と気づきにくい、周囲の人は気づきやすく、周囲の人から話してもらうと、家族が気づききっかけになるということだった。

	グループワークのテーマ	グループワークで発表された内容
グループ3	我が地域(団体)の、高齢者にかかる取組(お宝)を他地域へ自慢しよう!	<p>オラホの自慢</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉委員会と老人会による一人暮らし世帯訪問(友愛訪問) ・全戸への活動のお知らせ <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">常日頃の声掛けが大切</div>
	老人クラブ参加者 4人	<ul style="list-style-type: none"> ・神社の掃除、公会堂の掃除、花壇お手入れ、駅の掃除 ・健康講座、ふれあい旅行、懇親会、花見・芋煮会、三世代交流、レディースお茶会
	部会委員等の参加4人	その他、全体的な意見、司会者の印象にあること等
	邊見委員 三浦委員 (司会)鈴木健二委員 星啓太氏 (原町西包括社会福祉士)	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃からの声掛けが大事で、それにより安否確認や情報提供ができる。 ・老人会のないところでは、今後どうしたらいいか。(⇒老人会設置(エリア拡大)や他の組織による同様な活動) ・サロンで買い物ツアーがあるといい。 ・安心して地域で暮らしていくためには、やはり声かけが大切。子供から高齢者まで関係なく、交流できるイベントがあると、ちょっとした困りごととも地域の力で解決できる。
グループ4	グループワークのテーマ	グループワークで発表された内容
	一人暮らし等の方への支援(ゴミ出し、買い物、安否確認等)	<p>一人暮らしの方への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今のところ、隣りの家だけですが、声掛けを数年前からやっています。 ・組内からでも元気確認の目印を考えたらどうか?
	老人クラブ参加者 4人	<ul style="list-style-type: none"> ・(つながり方の多様さ)防災マップ作成・組対抗運動会開催→地域への声掛け、顔出し、確認
	部会委員等の参加2人	その他、全体的な意見、司会者の印象にあること等
	阿久津委員 (司会)佐藤晃生委員	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の住む地域では、近隣住民への声掛けや必要時の緊急通報(路肩や田んぼで倒れていた際は救急車を呼ぶなど)ができています。(司会) ・現在実行している見守りや支援以上のことを行政から求められているのかと身構えている方が多かった。(司会)

A グループワーク司会者(4人)へ照会結果

- | | | | | | | |
|--|-----------|-------------|---------------|-------------|----------------|--------------|
| 1 | グループの司会進行 | うまくいった(0) | ほぼうまくいった(2) | 普通(1) | 少しうまくいかなかった(1) | うまくいかなかった(0) |
| ⇒「ほぼうまくいった」との回答が多かった。否定的な意見が多かったグループもあった。 | | | | | | |
| 2 | 発表用模造紙の記載 | スムーズに書けた(1) | ややスムーズに書けた(0) | 普通(0) | やや負担になった(1) | 負担になった(2) |
| ⇒「負担になった」との回答が多かった。 <u>司会者と記録者を一緒にするのは難しいと思われる。</u> | | | | | | |
| 3 | 時間配分 | 足りなかった(2) | 少し足りなかった(2) | ちょうど良かった(0) | 少し余裕があった(0) | 余裕があった(0) |
| ⇒「少し足りなかった」との回答が多かった。 <u>グループワークは1つだけで良かったのではとの意見があった。</u> | | | | | | |
| 4 | グループワークの量 | 多過ぎた(2) | 少し多かった(2) | ちょうどよかった(0) | 少し少なかった(0) | 少なかった(0) |
| ⇒「多すぎた」との回答が多かった。 <u>グループワークは1つだけで良かったのではとの意見があった。</u> | | | | | | |
| 5 | グループ員の協力 | 協力的だった(2) | 少し協力的だった(1) | 普通(0) | 少し非協力的だった(1) | 非協力的だった(0) |
| ⇒「協力的だった」との回答が多かった。協議する内容等の説明から始めざるを得なかったグループがあった。 | | | | | | |

B 参加した太田地区老人クラブのご意見、感想

- 1 座談会のあり方(高齢者が住み慣れた地域で生活を続けるために、地域の皆さんがちょっとした助け合い・支え合いを考えると主旨の座談会)社協でも同様な座談会を行ったが、今回の参加メンバーは違う人が多く、肩ひじ張らないで参加できたようである。
- 2 参加者に地域での支え合い・助け合いの必要性の意識がより高まったか？
今回参加者はすでに必要性を感じている人たちで、再認識することができたと思う。
- 3 具体的な行動まで進めるには、どんなことが必要か？
行政等からの情報提供(送迎ボランティア時の保険など)

4 具体的な行動を検討していくための課題

移動手段(「足」)確保の問題がどの地域でも一番の問題だと思う。地域内で敬老会をするとき車に同乗させるボランティアをして送迎したが、保険には入っていなかった。このような時の送迎に保険があれば、安心して送迎できる。また、ガソリン代がかかるので、遠方まで移動する買い物などでの送迎は有償ボランティアや何らかのポイントが得られるなどのメリットがあった方がいいと思う。

① 声掛けの時、自分の連絡先等を記したチラシがあれば、訪問しやすい。訪問は年2回程度すればいいだろう。チラシの作成コストをどうするかは課題である。肩書きがあると訪問しやすいので、腕章やジャンバーがあるといい。また、老人クラブはない地区もあり、老人クラブの活動というより、福祉委員会の活動として行うのがいいと思う。

5 座談会の時間配分

1時間30分程度が適当と思う。

6 グループワークの進め方

① 1グループ5人程度だったので、発言しやすく良かった。今回の話し合いでは総論で終わったが具体的な解決策が出てくるように水を向けたら、具体策が出てきたかもしれない。他地区でのいい事例の紹介があれば、良かったかもしれない。

② テーマ(地域課題)を話し合いで決めてから、その解決策を話し合うと時間が掛かる。今回、テーマを指定したのは良かったと思う。司会者・記録者を事務局で担当してもらってよかった。参加者ではうまく進められなかったと思う。

「医療と介護の連携部会」の協議状況について

1 部会開催日

第1回：9月28日、1月17日の計2回開催

2 主な協議内容

(1) 病院とケアマネジャー間の退院調整ルールの運用状況について

- 県で、病院、ケアマネジャー等へ運用状況のアンケート調査を実施。
 - ・退院調整漏れ率は、H29年度 35.8%から H30年度 28.7%へと改善した。
 - ・南相馬市内においては、全般的にはルール運用は良好との結果。
 - ・ただし、ケアマネジャーから依頼した、カンファレンス開催やサマリー提供について連携できなかったケースもある。



○ 2月に相双管内の運用評価会議開催予定

- ・アンケートで出された課題に対して、関係機関で対応策を協議する。

(2) 包括ケアにかかる薬局との連携について

- ① 薬剤師のおためし訪問事業について
 - ・ 県薬剤師会で「薬剤師のおためし訪問」事業を12月から実施中。
 - ・ 同意を得たうえで、患者宅等へ無料で訪問し服薬管理の支援を行う。
- ② 薬局と地域包括支援センター等との連携（多職種勉強会）
 - ・ 現在、県薬務課主導のもと、認知症に関して、薬局における早期発見のツールや、関係機関との連携ツールの構築を検討中。
 - （1月31日に第2回会議開催：包括圏域ごとのツール検討）

(3) 身寄りのない高齢者への身元保証等について

- 病院や介護施設での身寄りのない高齢者への身元保証等の現状や課題、対応策を意見交換、協議。
 - ・ 医療費の未払い、医療行為（手術や延命治療等）の同意、死亡時の遺体・遺品の引き取り



- 昨年度、市で成年後見人への報酬助成を創設、市長申立ての際の要件を緩和した。
- ケース対応初期での親族調査や、かかわりを拒否する親族への金銭的援助以外での協力依頼
- 民間の身元保証等サービスの紹介
（ただし、利用するうえでの注意点を説明する旨の国の通知あり）
- 延命治療の本人意思について、事前に確認するしくみづくり

(4) 個別地域ケア会議から抽出された地域課題の検討について

- ・ 視覚障害を持つ高齢者の病院同行支援について協議 ⇒（資料2）

「介護予防部会」の協議状況について

1 部会開催日

10月19日、11月21日の計2回開催

2 主な協議内容

(1) 介護予防事業全般について

これまでの部会の振り返りや今後の流れ、各団体の取り組みについて確認後、意見交換する。

- ① 高齢者の通える場 (例：ミニデイ) の重要性について
- ② 各区または行政区単位の活動が重要
- ③ 介護予防活動の取り組み年齢は早めがいい (70歳以前)
- ④ 市内のサロンマップがあるといい
- ⑤ 認知症の相談などワンストップでできるといい

(2) 高齢者の通いの場について

- ① 通うための方法「足がない」という課題について
 - 地域の中での送迎ボランティアを募る (ボランティア保険)
 - サロンの日に巡回車を回す (有償ボランティア)
 - 足がないことを理由に出かけない場合もある
 - 参加してもらうために「周知方法を変える」
(何m歩くと消費カロリーは何Kcalになる 等)
- ② 男性の参加者が少ないという課題について
 - 男性は趣味に忙しいため、なぜ来て欲しいか目的を明確にする
 - 役割があると参加しやすいのではないか
 - 男性が興味をもって、かつプライドが保てる内容が必要
 - 昔は女性が家を守っていたが、立場が逆転して男性が家を守っている

男性を動かすキーワード 興味 報酬 責任感

「認知症支援部会」の協議状況について

1 部会開催日

10月23日、11月28日の計2回開催

2 主な協議内容

(1) 軽度認知症の方への対応について

※各事業の現状から出された課題について意見交換する

- ①新規事業を実施したが、軽度認知症の方は地域に多くいるという現状から、多くの受け皿が必要。
- ②新規参加者を増やすために、周知方法の検討が必要。
- ③介護家族の心身の負担を軽減するために、参加しやすい環境づくりが重要。
- ④認知症の方への対応が地域の方（素人）では難しいという現状から、認知症サポーター等のボランティアの活用を検討。
- ⑤認知症の状態に合わせて、事業内容が違う方がよい場合と同じにすることで軽度の方の役割がもてることもある。

(2) 認知症高齢者の見守りについて

【認知症の普及・啓発】

- ①軽度の段階から見守りをして認知症の早期発見・早期支援につなげることを目的にする。
テーマ：『あれっ？と思ったら声に出そう！そしてつなぐ』
- ②認知症サポーターを増やす。
地域で見守りをする認知症サポーター養成講座の開催。
- ③対象は行政区、事業所または施設、学校等の小さい単位で行う。
- ④取り組みの案としてモデル地区を指定し、サポーター養成講座＋見守り活動を実施してはどうか。また、意識の高い地域への表彰も検討。
- ⑤普及の内容は「予防」＋「早期発見」＋「対応」。
- ⑥普及する内容のバリエーションを増やし、細やかに計画的に実施。